

生命科学部

【2025 年度 大学評価総評】

2024 年度大学評価委員会の評価結果については、教授会や各学科の教室会議を通じて全教員へ周知し学部内で共有するとともに、課題については2025 年度の年度目標に設定するなど適切な対応が行われている。改善・向上の取り組み（教育課程およびその内容、教育方法）に関しては、新規開講された理系リメディアル科目について、授業改善アンケート結果や学生モニターの実施結果をもとに改善・向上に取り組み、授業内容や課題の過多、出席率の向上といった課題を解決した点は評価できる。改善・向上の取り組み（教員・教員組織）に関しては、カリキュラムを俯瞰して再構築する委員会が先導する形で、「生物と化学のための数学」などの特色的な講義の立ち上げなどもなされており（かつ5 限にも関わらず履修者 60 名弱の盛況）、高く評価できる。

中期目標・年度目標達成状況報告書については、掲げた年度目標にいずれも真摯に対応している。特に継続性がきちんとなされており、評価・分析段階から具体的な施策への移行に移ろうとする項目も多々あり、今後の成果に期待したい。

【2025 年度 自己点検・評価結果】

I. 改善・向上の取り組み

(1) 2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2024 年度大学評価結果総評】（参考）

評価基準の各項目について、バランスの取れた目標と指標の設定を行っており、適切な学部運営が進められていると見受けられる。

特に、教育課程・教育方法について、2023 年度に開始されたリメディアル科目の開講があり、KLAC や他学部執行部との調整を経て、履修手順の覚書の制定など、具体的な仕組みを整備して、実施に至っていることが評価できる。さらに、リメディアル科目履修者の進級状況の把握や、学生モニター制度を活用して、課題量やクラス数の適正化を行うなど、導入段階での PDCA サイクルが確立できていることも評価できる。次年度に向けた履修しやすい開講時間帯の設定などについても、引き続き検討していくことが望まれる。

この他、研究成果の情報発信として、学会や研究成果報告イベントに参加した学生数が増加しているとのことであり、理系教育が成果を上げていると見受けられる。

リメディアル教育は、中長期的な評価が必要であることから、2024 年度の重点目標に掲げられている通り、継続的な検証と、科目実施へのフィードバックが望まれる。

【2024 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

大学評価委員会の評価結果は教授会および各学科の教室会議を通じて全教員へ周知し、学部内で情報を共有している。また評価結果を執行部で検討し、以下の項目に焦点を当てて年度目標を設定した。

評価総評の中でも言及されているリメディアル科目の効果について、今年度は中長期的な評価が可能になってくるので、定量的な検証を進める。そして、これまでに構築したリメディアル科目の学生モニターにより、受講学生からの学習効果について評価し、科目実施へのフィードバックを行い、さらなる改善を目指す。この他、研究集会など対外的な発表の場へ学生の参加支援を引き続き適切に進めることで、学習成果の情報発信を積極的に行う。

(2) 改善・向上の取り組み（教育課程およびその内容、教育方法）

<p>アセスメント・ポリシーに基づき、ディプロマ・ポリシーに示した学習成果を把握しましたか。結果を学部としてどのように評価しましたか。</p> <p>＜対応する大学基準：学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。＞</p>	<p>S. 学習成果が達成できていることが確認できた</p> <p>A. 学習成果が概ね達成できていることが確認できた</p> <p>B-1. 学習成果が達成できていないものがあつたことを確認できた</p> <p>B-2. 学習成果の達成度を確認するには、測定方法が不十分であることが確認できた</p> <p>B-3. ディプロマ・ポリシーの見直しの必要性を確認できた</p>	<p>A（学習成果が概ね達成できていることが確認できた）</p>
---	--	----------------------------------

上記の選択をしたのはなぜですか。実施主体、測定対象や測定方法を踏まえて理由を具体的に記入してください。

《理由》生命科学部では、専門教育科目で習得した知見の有機的連関を基礎として、卒業研究を行う。そこで、ディプロマポリシーVII「総合的に修得した知識・技能を多面的で創造的な視点と思考力をもって、積極的に社会貢献を果たし、市民社会で活躍する能力を身につけている。」に示された学習成果を検討するため、卒業研究関連科目とその基盤となる専門科目の学習成果について執行部で評価した。

- ・学修成果可視化システムにより、専門教育科目の成績分布とその推移を確認した。
- ・卒業論文発表会において、課題に対する創造的視点や思考力、それらを基礎として行なった研究により得られた知見について、精査した。
- ・卒業生アンケート質問事項「ゼミ・研究室の活動」および「卒業論文・研究」における肯定的回答の比率を確認した。

教育課程およびその内容、教育方法について、学部として過去4年間（2021年度～2024年度）の中で特に改善・向上に向けて取り組んだ事例について、①～⑩の項目から《改善した項目》を選択し（レ点チェック）、その詳細について《改善内容》《改善した結果良かった点・課題》を記入してください。

《対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》

事例

《改善した項目》  
（複数選択可）

- ✓ ①開講時期、開講頻度、授業時間等
- ✓ ②授業科目の内容（目標、内容、開設授業科目数、授業科目の統廃合）
- ③授業科目の関係（各科目間の関係、ナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修系統図等）
- ④教育方法（授業の形態、授業方法等）
- ⑤評価基準、評価方法
- ✓ ⑥学生の履修（履修科目の登録上限、履修順序、必修科目と選択科目の設定、配当年次等）
- ⑦地域社会・国際社会・産業界等の社会との接続、大学院教育との接続
- ⑧学習支援（単位の実質化のための取り組み、各種相談・サポート、学生の主体的な学習を促す取り組み）
- ⑨留学、インターンシップ、フィールドワーク等プログラムの充実
- ⑩その他

《改善内容》

※理由を含めて記入してください。

新規開講された理系リメディアル科目（入門数学、入門物理学、入門化学、入門生物学）について、授業改善アンケート結果やリメディアル科目独自の学生モニター実施結果をもとに改善・向上に向けて取り組んだ。開講当時に見られた以下の問題を解決した。一部の科目では授業内容や課題の過剰が見られたが、授業担当者との綿密な議論による調整を行なった。また1限開講で出席率が低い傾向があった科目については、時間割を検討し出席率を上げることに成功した。

《改善した結果良かった点・課題》

授業内容の検討のおかげで、授業改善アンケート結果やリメディアル科目独自の学生モニター実施結果においても極めて評価が高い。専門教育科目へのスムーズな接続が可能になったという意見は、改善・向上の結果が反映されたと考えられる。しかしながら、出席率の増加を狙った時間割の再検討が容易ではない場合もあり、出席率の増加は今後の課題である。

（3）改善・向上の取り組み（教員・教員組織）

教員・教員組織について、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを《項目》の中から選択し、《内容》を記入してください。

・教員組織に対する取り組み※

※主に、教員が担う責任の内容、科目適合性の学内での判断、各教員の担当授業科目、担当授業時間の把握・管理（複数の所属、他大学・企業等との兼務教員について業務状況や教育効果含む）について

- ・教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みとその成果
- ・授業における指導補助者（TA等）の活用に対する取り組み

《対応する大学基準：教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。》

< 対応する大学基準：教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。 > < 対応する大学基準：教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。 >	
<< 特色または課題 >>	特色
<< 項目 >>	教員組織に対する取り組み※主に、教員が担う責任の内容、科目適合性の学内での判断、各教員の担当授業科目、担当授業時間の把握・管理（複数の所属、他大学・企業等との兼務教員について業務状況や教育効果含む）について
<< 内容 >> 生命科学部では、21年度に発足した基盤教育カリキュラム委員会が先導し、カリキュラム再構築についての議論を重ね、科目の統廃合や新規科目の開講に至った。その中でも注目すべきは、学部共通科目「生命と化学のための数学」である。数学と物理学を専門とする教員が学科の垣根を越えて担当する。この科目は、数学に苦手意識を持つ学生が多い生命科学部において、高度な数理的内容を扱うにも関わらず、57名（学部定員236名）もの学生が履修する盛況な授業となった。	

## II. 全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

### (1) 自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

学部における「実践知」を体現する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。 < 対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。 > < 対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。 >	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
<< 内容 >>		

### (2) オンライン教育の取り組み

オンライン授業は「2024年度以降の授業編成における留意点について（報告）」(2023年度第6回学部長会議資料 No.7) に沿って、適した授業科目に用いられ、その有効性や教育効果を確認し、改善・向上を図っていますか。 < 対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。 >	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
<< 内容 >>		

### (3) 学生の声を活かした取り組み

学部レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。 < 対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。 >	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
<< 内容 >>		
授業レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。 < 対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。 >	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)

上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。  
 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。  
 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。

《内容》

### Ⅲ. 2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	理念・目的	
中期目標	生命科学部では、自然科学の知識を基盤として多様な生命科学を学ぶことができることを、在学生および受験生と保護者などに対して周知する。	
年度目標	生命科学部の魅力を広く周知するために、学部および各学科のホームページの更新を定期的に行うとともに学生モニターを活用し、生命科学部の理念や目的が周知されているかを検証する。	
達成指標	ホームページの更新日時をモニターし、教授会等で報告するとともに、学生モニターの回答結果を教授会で共有し、フィードバックが必要な回答については学生に検討結果を周知する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学部および学科のホームページの更新日時を執行部会議で共有して分析し、学部全体で年間 71 回の更新が行われており、毎週学部からの新しい情報が外部発信されていることを確認した。学生モニタ・新入生アンケートの回答を執行部会議・教授会で報告するとともに理念・目的の学生への周知状況を検証した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学部ホームページを頻繁に更新しており、また新入生アンケートと学生モニターを活用して広報活動について検証した点が評価できる。
	改善のための提言	例年のことではあるが、学部の理念などを深く理解しないで入学してくる学生が多いので、今後も理念・目的の周知に努めていただきたい。
評価基準	内部質保証	
中期目標	自己点検作業における執行部会議と質保証委員会の役割をより明確に分けた現在の体制を維持し、厳格な PDCA サイクルを行う。	
年度目標	内部質保証の PDCA サイクルの継続を念頭に、執行部会議および独立した質保証委員会を定期的を開催する。	
達成指標	執行部会議における定期的な内部質保証の検討に加えて、独立した質保証委員会を年 4 回開催して検討を行う。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	執行部以外のメンバーによる質保証委員会を 4 回開催し、内部質保証について頻繁に検討した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	執行部会議とは独立した質保証委員会による年度末状況報告書等の点検・評価が厳格に実施されている。PDCA サイクルが適切に行われていると評価できる。
改善のための提言	—	
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	教養科目と専門科目の連携を強化すると同時に、カリキュラムを見直し、リメディアル教育など新しい科目を導入することで、理系基盤教育を充実させる。	

年度目標	23年度に新規開講したリメディアル科目の教育効果の定量的な検証を開始する。	
達成指標	執行部会議および生命科学部基礎教育カリキュラム委員会においてリメディアル科目の教育効果を検討する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	リメディアル科目の履修状況などを執行部会議・教授会で共有して検証した。特に「生物と化学のための数学」は5限であるにも関わらず、履修者が多く、学生も意欲的で成功している。長年の懸案であった専門必修科目と教養科目の時間割上の重なりを解消した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	専門必修科目と教養科目の時間割上の重なりを解消したことに加え、新設したリメディアル科目も成功しており、素晴らしい取り組みであると高く評価できる。
	改善のための提言	今後はリメディアル科目を履修した学生が高学年になっていくので、GPAの推移や成績不振になりにくいかなど、教育効果の検証を行っていただきたい。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	対面とオンライン両方の利点を組み合わせた新しい教育・学習形態を確立する。	
年度目標	対面授業を基本とする教育におけるオンライン教材の活用法を検討する。	
達成指標	執行部会議および教室会議においてオンライン教材の検討を行うとともに授業公開の実施回数と授業形態の状況調査を実施する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	執行部会議で各学科においてオンライン形態で実施している科目やオンライン教材の活用事例の共有を行い検証を行うとともに授業参観回数とその報告について教授会で共有した。
	改善策	授業参観人数が減少しているため、次年度は授業公開が教員の育成機会にもなっていることなど改めて伝え、特に若手教員の参観を促す。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	授業参観人数が減少していることは残念であるが、オンライン形態での実施や活用事例を検証している点については評価できる。
	改善のための提言	参観人数は減少しているものの、もともと生命科学部は他学部と比較しても授業参観の実施回数が多い学部であり、ぜひ今後も参観を促す取り組みを継続していただきたい。長年在籍している教員の授業は一通り参観していると考えられるため、若手教員との相互参観を促すことが重要であると思われる。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	学習の総合的な結果である研究成果を対外的に発表することを促進する。	
年度目標	小金井祭、オープンキャンパス、科学技術フォーラムなども活用しつつ、学外行事(学会・研究会・イベント等)への学生の参加を促す。	
達成指標	学外行事への学生の参加回数を調査する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学術集会や研究成果報告等の各種イベントに参加した学生数は延べ95名に達し、活発に研究成果の対外発信が行われた。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	

	所見	対外発信の数を継続的にモニターしている点が評価できる。各種イベントへの参加者が、年々増加傾向である点についても高く評価したい。
	改善のための提言	研究活動の成果を対外的に発表することを促すことは、理系学部の学生の教育として重要である。ぜひ今後も継続していただきたい。
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	広報イベントを通じた受入方針の周知について、効率のよい方法を確立する。
	年度目標	アンケートを実施し、広報活動の効果を検証する。
	達成指標	執行部会議において広報活動に関するアンケートの分析を行う。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	執行部会議にて各学科で実施した新入生アンケートの結果を分析して、学部の広報活動が学生の受け入れに与える影響について検証した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	新入生アンケートを活用し、広報活動の効果を検証したことは評価できる。
	改善のための提言	各学科の取り組みは他学科の広報活動にも大変参考になると思われるので、執行部会議だけでなく教授会でも検証結果を報告していただけるとありがたい。
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	①生命科学部にふさわしい教養教育を行う体制を整える。
	年度目標	教養・専門教育連携委員会を開催し、教養科目担当教員と専門科目担当教員の意見交換の場を継続・強化する。
達成指標	教養・専門教育連携委員会の活動内容を教授会等で共有する。	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	教養・専門教育連携委員会を開催し、学生モニターの結果を検討するとともに、次年度以降の履修になどに関する意見交換を行った。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学生モニターの結果を利用して教養教育と専門教育の連携を図る取り組みが高く評価できる。
	改善のための提言	—
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	②充実した教職課程教育を遂行できる体制を整える。
	年度目標	教員不足などの社会情勢を踏まえ、教職課程教育の充実について教職課程連絡会議で検討を行うとともに、卒業生の中高教員との連携も図る。
達成指標	教職課程連絡会議の活動記録および、卒業生教員との交流回数を教授会等で共有する。	
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	卒業生教員とは計2回の交流会を設けた上、教職科目内での模擬授業や実践報告、教材貸出・相談など交流や連携を密に行っている。教職課程連絡会議を開催し、教職課程教育について意見交換を行った。
	改善策	—

質保証委員会による点検・評価	
所見	教職課程連絡会議を開催し、教職課程運用上の問題について議論し、改善を図っていることは評価できる。卒業生教員と交流会を設けて継続的にコンタクトを取っている点も高く評価できる。
改善のための提言	卒業生教員との交流会を実施している例は他学部では非常に少ないと思われる。素晴らしい取り組みであるのでぜひ今後も継続していただきたい。
評価基準	学生支援
中期目標	留学生に対する修学支援制度を確立する。
年度目標	留学生が必要としている支援について、在籍する留学生から直接・間接的に情報収集を行い、教員と留学生がコミュニケーションをとるための施策を検討する。
達成指標	在籍する留学生や留学生窓口担当者から収集した情報および、教室会議・執行部会議における留学生支援の検討記録を教授会等で共有する。
教授会執行部による点検・評価	
自己評価	A
理由	学務課では窓口寄せられた、帰国する留学生については校友会のメリットが得られにくいという声に対して検討を行い会費の返金対応を行った。各学科で行われた留学生支援に関する取り組みや検討について執行部会議で共有して検討した。
改善策	—
質保証委員会による点検・評価	
所見	各学科における留学生支援の取り組みを共有し検討している点が評価できる。また、窓口寄せられた声に対して検討を行い適切に対応している点を高く評価したい。
改善のための提言	—
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	学外へ向けて研究・教育活動の紹介を促進する。
年度目標	科学技術フォーラム、小金井祭、オープンキャンパスなどにおいて、研究・教育活動を発信する。ホームページでの広報活動を促進する。
達成指標	科学技術フォーラム、小金井祭、オープンキャンパスなどにおける発表回数およびホームページで公開された研究活動の紹介回数を調査する。
教授会執行部による点検・評価	
自己評価	A
理由	一般の学外者が多数参加する各種イベントで計35回の研究・教育活動の発表を行った。学部・学科などのホームページ上でも研究活動に関する発信を計35回行った。
改善策	—
質保証委員会による点検・評価	
所見	研究・教育活動の発表数が非常に多い点が評価できる。また、研究活動に関する情報をホームページ上でも発信している点も高く評価できる。
改善のための提言	学外へ向けて研究・教育活動を紹介することは理系学部の社会貢献として非常に重要であるため、ぜひ今後も取り組みを継続していただきたい。
<p><b>【重点目標】</b>  教育課程における初年次教育・高大接続への配慮施策として23年度に新規開講したリメディアル科目の教育効果の定量的な検証を開始し、PDCAサイクルをスタートする。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b>  23年度に新規開講したリメディアル科目（入門数学、入門物理学、入門化学、入門生物学）の教育効果の定量的に検証するため、履修状況、履修前後のプレースメントテスト成績、および履修者の進級状況、2年目以降の成績について数値データを集計し評価を行う。</p>	

**【年度目標達成状況総括】**

2024年度もこれまでの取り組みを継続し、自己点検、評価の年度目標を概ね達成した。このうち、2023年度から取り組むリメディアル科目関連では、2年目となって得られたデータを解析し、良かった点や改善すべき点を話し合い、より良い教育を提供できるように進歩している。この点を特に評価している。一方、教員による授業参観はこのところ参加者数の減少傾向が続いており、このように継続によるマンネリ化が考えられる部分は対処したい。

**IV. 2025年度中期目標・年度目標**

評価基準	理念・目的
中期目標	生命科学部では、自然科学の知識を基盤として多様な生命科学を学ぶことができることを、在学生および受験生と保護者などに対して周知する。
年度目標	学部および各学科のホームページを高頻度で更新することで生命科学部の魅力を広く周知する。ガイダンスやオープンキャンパスなどの機会に、生命科学部の理念・目的を周知し、新入生アンケートや学生モニター制度を利用してその効果を検証する。
達成指標	ホームページの更新頻度をモニターする。新入生アンケート・学生モニター結果を教授会で報告する。
評価基準	内部質保証
中期目標	自己点検作業における執行部会議と質保証委員会の役割をより明確に分けた現在の体制を維持し、厳格なPDCAサイクルを行う。
年度目標	執行部会議および質保証委員会を独立した形で定期的に行い、内部質保証のPDCAサイクルを適切に回す。
達成指標	執行部会議および質保証委員会の開催回数を調査し、内部質保証の検討記録を評価する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	教養科目と専門科目の連携を強化すると同時に、カリキュラムを見直し、リメディアル教育など新しい科目を導入することで、理系基盤教育を充実させる。
年度目標	23年度に新規開講したリメディアル科目の受講者が高学年になってきているので、GPAの推移などを定量的に検討することで、中長期的な教育効果の検証を行い、今後のリメディアル科目の履修推奨基準などの検討材料とする。
達成指標	執行部会議および生命科学部基礎教育カリキュラム委員会においてリメディアル科目の効果を検証する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	対面とオンライン両方の利点を組み合わせた新しい教育・学習形態を確立する。
年度目標	対面授業を基本とした教育におけるオンライン教材の効果的な活用法を検討する。
達成指標	執行部会議および教室会議においてオンライン教材について検討する。授業公開の実施記録を教授会で共有する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学習の総合的な結果である研究成果を対外的に発表することを促進する。
年度目標	学内・学外で主催される研究集会への学生の参加を積極的に勧める。
達成指標	学会・研究会や科学技術フォーラムへの学生の参加/発表回数を調査する。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	広報イベントを通じた受入方針の周知について、効率のよい方法を確立する。
年度目標	新入生にアンケートを実施し、広報効果の検証を行う。
達成指標	執行部における広報活動に関するアンケートの分析から、広報効果を評価する。
評価基準	教員・教員組織

中期目標	①生命科学部にふさわしい教養教育を行う体制を整える。
年度目標	教養・専門教育連携委員会を開催し、教養科目担当教員と専門科目担当教員の意見交換の場を継続・強化する。
達成指標	教養・専門教育連携委員会の活動記録を教授会で報告する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	②充実した教職課程教育を遂行できる体制を整える。
年度目標	教職課程連絡会議を開催し、教職課程教育の充実について検討するとともに、卒業生の現役中高教員との連携を強化する。
達成指標	教職課程連絡会議の活動記録を教授会で報告する。
評価基準	学生支援
中期目標	留学生に対する修学支援制度を確立する。
年度目標	グローバル担当との連携により、留学生が求める支援について検討する。
達成指標	小金井グローバル担当、学務課と執行部で行う留学生支援について検討する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	学外へ向けて研究・教育活動の紹介を促進する。
年度目標	科学技術フォーラム、小金井祭、オープンキャンパスや研究集会などにおいて、研究・教育活動を発信し、受賞などはホームページで公開する。
達成指標	科学技術フォーラム、小金井祭、オープンキャンパスや研究集会などにおける発表数と、ホームページ上に公開された研究成果の件数を調査する。
<p><b>【重点目標】</b>  23年度に新規開講したリメディアル科目の受講者が高学年になってきているので、GPAの推移などを定量的に検討することで、中長期的な教育効果の検証を行い、今後のリメディアル科目の履修推奨基準などの検討材料とする。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b>  プレースメントテストの成績とリメディアル科目の成績および履修状況に対して、2年次以降の発展的な専門科目の成績との間の相関関係やその推移、その他の科目との比較を通じて、リメディアル科目の効果を精密に評価する。</p>	

IV-2. 2025年度中期目標・年度目標達成状況報告書

生命科学部

評価基準	中期目標 (2022-2025年度)	年度目標	達成指標	年度末報告				
				教授会執行部による点検・評価（教授会承認）			質保証委員会による点検・評価（教授会報告）	
				自己評価	理由	改善策	所見（達成状況の評価とその理由）	改善のための提言
理念・目的	生命科学部では、自然科学の知識を基盤として多様な生命科学を学ぶことができることを、在学生および受験生と保護者などに対して周知する。	学部および各学科のホームページを高頻度で更新することで生命科学部の魅力を広く周知する。ガイダンスやオープンキャンパスなどの機会に、生命科学部の理念・目的を周知し、新入生アンケートや学生モニター制度を利用してその効果を検証する。	ホームページの更新頻度をモニターする。新入生アンケート・学生モニター結果を教授会で報告する。	A	学部および各学科のホームページ更新状況を執行部会議で共有した。学部全体では計27回の更新が行われており、継続的かつ高頻度な情報発信が行われていることを確認した。あわせて、新入生アンケートおよび学生モニターの結果を教授会で共有し、理念・目的の周知状況について検証した。	—	理念・目的の周知に向けて、学部および学科のホームページを高頻度で更新し、その更新頻度を共有することで、継続的かつ高頻度な情報発信が実現されている。生命科学部の理念・目的も周知され、新入生アンケートや学生モニター制度を利用してその効果の検証も行われており、年度目標が達成されたと評価できる。	ホームページ以外にもプッシュ型の情報発信のツールの検討も将来的に必要かと思われる。
内部質保証	自己点検作業における執行部会議と質保証委員会の役割をより明確に分けた現在の体制を維持し、厳格なPDCAサイクルを行う。	執行部会議および質保証委員会を独立した形で定期的開催し、内部質保証のPDCAサイクルを適切に回す。	執行部会議および質保証委員会の開催回数を調査し、内部質保証の検討記録を評価する。	A	執行部会議（15回）とは独立に、質保証委員会を4回開催し、内部質保証に関する議論を行った。これらの議論内容については、執行部会議との間で共有した。	—	15回の執行部会議およびそれと独立した形で年4回の質保証委員会が開催されており、それぞれの議論の内容が共有されている。内部質保証のPDCAサイクルが適切に実現されたと評価できる。	—
教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	教養科目と専門科目の連携を強化すると同時に、カリキュラムを見直し、リメディアル教育など新しい科目を導入することで、理系基盤教育を充実させる。	23年度に新規開講したリメディアル科目の受講者が高学年になってきているので、GPAの推移などを定量的に検討することで、中長期的な教育効果の検証を行い、今後のリメディアル科目の履修推奨基準などの検討材料とする。	執行部会議および生命科学部基盤教育カリキュラム委員会においてリメディアル科目の効果を評価する。	S	生命科学部基盤教育カリキュラム委員会において、リメディアル科目の履修・修得状況を調査し、その結果を教授会で共有した。あわせて、受講者の高年次GPAを追跡・分析し、教育効果の検証を行った。	—	リメディアル科目のこれまでの成果について、着実に検証が行われている。23年度に新規開講したリメディアル科目については、継続的に教育効果を検証していく必要がある。履修・修得状況を調査するだけでなく、履修者が高学年に達した年度にGPAを追跡・分析し、教育効果の検証を行った点は高く評価できる。	今後は、リメディアル科目の専門科目への接続の効果など、高年次のGPAに加えたさらなる検証が行えると良い。
教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	対面とオンライン両方の利点を組み合わせた新しい教育・学習形態を確立する。	対面授業を基本とした教育におけるオンライン教材の効果的な活用法を検討する。	執行部会議および教室会議においてオンライン教材について検討する。授業公開の実施記録を教授会で共有する。	A	各学科において、オンライン実施科目やオンライン教材の活用事例について共有を行った。あわせて、授業参観の実施回数およびその報告内容を教授会で共有した。	参観回数が継続的に少ない点が課題であり、手続きの簡素化や短時間参観の推奨といった教員の負担軽減策を講じる必要がある。また、若手教員との相互参観を積極的に促したい。	参観回数が継続的に少ない点においては残念であるが、オンライン実施科目やオンライン教材の活用事例について共有を行ったこと、毎学期の授業公開を継続的にしていることは評価できる。	オンライン実施科目の参観も検討するとよい。また、若手教員のみならず、各教員が授業レベルを向上させるために積極的に参観を活用できるような工夫を求めたい。
教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	学習の総合的な結果である研究成果を対外的に発表することを促進する。	学内・学外で開催される研究会への学生の参加を積極的に勧める。	学会・研究会や科学技術フォーラムへの学生の参加/発表回数を調査する。	S	計77名の学部学生が学会・研究会（科学技術フォーラムを含む）に参加し、研究成果を活発に発信している。	—	本学部の教育において、研究実践（卒業研究）は主要な役割を担っている。学部学生の全体数からして少なくないと言える77名もの学部学生が学会・研究会へ参加し発表をおこなっていることは、研究実践を中心とした教育効果の現れとして高く評価できる。	—
学生の受け入れ	広報イベントを通した受入方針の周知について、効率のよい方法を確立する。	新入生にアンケートを実施し、広報効果の検証を行う。	執行部における広報活動に関するアンケートの分析から、広報効果を評価する。	A	各学科で実施した新入生アンケートの結果を検証し、学生の受け入れ状況と広報活動との関係について執行部で検討した。さらに、教授会において検証結果を報告した。	—	新入生アンケートを実施し、その結果、受入状況、関係する広報活動について検証したこと、またそれらを教授会で共有していることについては高く評価できる。	—
教員・教員組織	①生命科学部にふさわしい教養教育を行う体制を整える。	教養・専門教育連携委員会を開催し、教養科目担当教員と専門科目担当教員の意見交換の場を継続・強化する。	教養・専門教育連携委員会の活動記録を教授会で報告する。	A	教養・専門教育連携委員会において、学生モニターの結果を検討し、次年度以降の履修推奨等について意見交換を行った。	—	教養教育と専門教育の連携は重要でありながら困難な課題でもある。この点について、常設の委員会を設けて検証・対応していること、および学生モニターの結果を活用していることは高く評価できる。	—

評価基準	中期目標 (2022-2025年度)	年度目標	達成指標	年度末報告				
				教授会執行部による点検・評価（教授会承認）			質保証委員会による点検・評価（教授会報告）	
				自己評価	理由	改善策	所見（達成状況の評価とその理由）	改善のための提言
教員・教員組織	②充実した教職課程教育を遂行できる体制を整える。	教職課程連絡会議を開催し、教職課程教育の充実について検討するとともに、卒業生の現役中高教員との連携を強化する。	教職課程連絡会議の活動記録を教授会で報告する。	A	教職課程連絡会議において、教員採用試験の結果や、教職を志望する本学学生数の動向等が共有された。また、教育実習に臨む学生と卒業生教員との交流の機会を設け、実際の教育現場に関する情報共有を行った。また、教育課程編成教授会で教職課程を含む新カリキュラム検討のスケジュールを確認した。	—	教職課程を設置していることは、中高教員を志望する（または興味のある）学生にとって有意義であるのみでなく、優れた理科教員を養成することも本学部の大事な役割と位置づけられる。学部横断的な教職課程連絡会議を設けて教員採用試験の結果や、教職を志望する本学学生数の動向等を共有していること、教育実習に臨む学生と卒業生教員との交流も図っていることは高く評価できる。	新カリキュラムの検討についても、確認されたスケジュールに遅れることなく、実行されることを望む。
学生支援	留学生に対する修学支援制度を確立する。	グローバル担当との連携により、留学生が求める支援について検討する。	小金井グローバル担当、学務課と執行部で行う留学生支援について検討する。	A	留学生ガイダンスに参加し、生命科学分野の学修に関するアドバイスを内容とするプレゼンテーションを行った。また、各学科における留学生支援の取組や検討結果について、執行部会議で共有した。	—	ガイダンスへの参加、プレゼンテーションによる支援の取り組みは、学部に留学生への積極的な支援を示すものである。その取り組みについて情報共有し、検討したことは評価できる。	—
社会貢献・社会連携	学外へ向けて研究・教育活動の紹介を促進する。	科学技術フォーラム、小金井祭、オープンキャンパスや研究会などにおいて、研究・教育活動を発信し、受賞などはホームページで公開する。	科学技術フォーラム、小金井祭、オープンキャンパスや研究会などにおける発表数と、ホームページ上に公開された研究成果の件数を調査する。	A	学外向けの各種イベントにおいて、研究室紹介および研究発表を計30件実施した。また、学部・学科ホームページにおいて、研究に関する情報発信を計7回行った。	研究成果の発信のさらなる充実に向けて、研究成果のプレスリリースの活用を促進するとともに、発信チャンネルの多様化を含めた方策について検討を行う。	学外向けの各種イベントにおいて、多数の研究室紹介および研究発表が行われ、学部・学科ホームページにおいても情報発信されたことは評価できる。研究発表の件数は30件のほり、学外に向けて適切に成果が発信されているといえる。	ホームページのみならず、社会実装に向けて効果的なメディア、手法を検討していく必要がある。

自己評価について

- S 目標を十分達成し、質の向上が顕著である。
- A 目標をほぼ達成し、質の向上が見られる。
- B 目標の達成が不十分である。
- C 目標が達成できていない。

【重点目標】	【目標を達成するための施策等】
23年度に新規開講したリメディアル科目の受講者が高学年になってきているので、GPAの推移などを定量的に検討することで、中長期的な教育効果の検証を行い、今後のリメディアル科目の履修推奨基準などの検討材料とする。	ブレースメントテストの成績とリメディアル科目の成績および履修状況に対して、2年次以降の発展的な専門科目の成績との間の相関関係やその推移、その他の科目との比較を通じて、リメディアル科目の効果を精密に評価する。
【年度目標達成状況総括】	
年度目標の達成指標に基づき評価した結果、ほぼ全ての項目において年度目標は概ね達成されていると判断できる。中でも重点目標として位置づけたリメディアル科目の中長期的な教育的効果の検証については、受講者の2年次以降のGPAを追跡調査することで、リメディアル科目の中長期的な教育効果を検証できた点を高く評価している。また、学部学生による学会・研究会等への参加も継続的に実施されており、学部学生による成果発信が学部として定着していることが確認された。今後は、各種委員会活動や教育支援に関する取組について、その成果を具体的な改善につなげていくことが期待される。	